

陳 情 文 書 表

受 理 番 号	陳 情 第 1 8 号
件 名	市民に喜ばれる公共交通について
要 旨	<p>先月、BRT連節バスについてのアンケートが行われ、市民の6割が不満であると出ていました。</p> <p>2013年5月18日から始まったBRT連節バス説明会、安全、安心篠田inトークの会では、市民98%がBRT連節バスに反対していました。市民の声を無視し、無理やり2015年9月5日に開業し、市民に多大な迷惑をかけ、市民は今も憤っています。</p> <p>BRT連節バスは、開業当日に白山駅入り口で銀バスと事故。機械システムのトラブルで、後日、2日間無料乗車させました。開業2カ月で、BRT連節バス4台が蛇腹の雨漏り、窓枠の雨漏り、オイル漏れ、機械システムのトラブル、エンジントラブルのため修理中で走っておらず、4名の市民の方々から、BRT連節バスが走っていません、やめたのでしょうかと私宅に電話が入りました。その間、代車として、銀バスを走らせていたのであれば、BRT連節バスは必要ないのです。その後も修理ばかり続き、莫大な修理代を出費しています。</p> <p>市民は、乗りかえのロス時間、待ち時間に疲れ、冬は風邪を引く人が多く、通院費、入院費がかかり、大変不便なだけの公共交通に怒りばかりです。小中高校生、大学生は、乗りかえで疲れ、朝は早起きをし、夜は帰宅が遅くなり、時間のロスに疲れ、学習する時間がないと言っていました。高齢者の方々は、直通だったバスが乗りかえでつらくなり、シニア半わりになっても本町、古町へは行けないとのこと。商店街の方々は、BRT連節バスが開業してからお客様が来なくなったと嘆いていました。</p> <p style="text-align: right;">(裏面につづく)</p>
付 託 年月日 委員会	令和元年9月13日 環境建設常任委員会
受 理	令和元年8月28日 第272号

市民の方々があれだけ反対していたのに無理やり導入し、市民に多大な迷惑をかけたことに憤っています。

がん患者の方々は、明日病院に行くと思うだけで体力が消耗し、疲れ、この4年間でどれだけの方々が天に召されたことか知れません。

市民いじめはやめてください。安心、安全なまちづくりと言っていますが、どこが安心、安全なのでしょう。

国際弁護士の清原博氏が、国会議員、県議、市議、町議は、国民、県民、市民、町民に雇われているのだから、国民、県民、市民、町民の声を聞き仕事をしなければ、世の中よくなりませんと言っていました。

市民の98%以上が反対し、市職員は70%が反対、新潟交通社員は95%が反対しています。中原八一市長は、市民に喜ばれる公共交通にしたいと言っていました。市議の方々は、市民のためになる仕事をし、心を込めて、市民のため、市のため、町のために働いてください。

BRT連節バス問題が起きてから6年8カ月。ゼロ歳児がもう小学1年生です。BRT連節バスが嫌で引っ越した方々、世を去る方々、このままでは市はよくなりません。市民が穏やかに過ごせるような公共交通にしてください。

市民が喜んでバスを利用し、新潟に住んでもらえるよう、市民に喜ばれる公共交通にすることを求め陳情いたします。